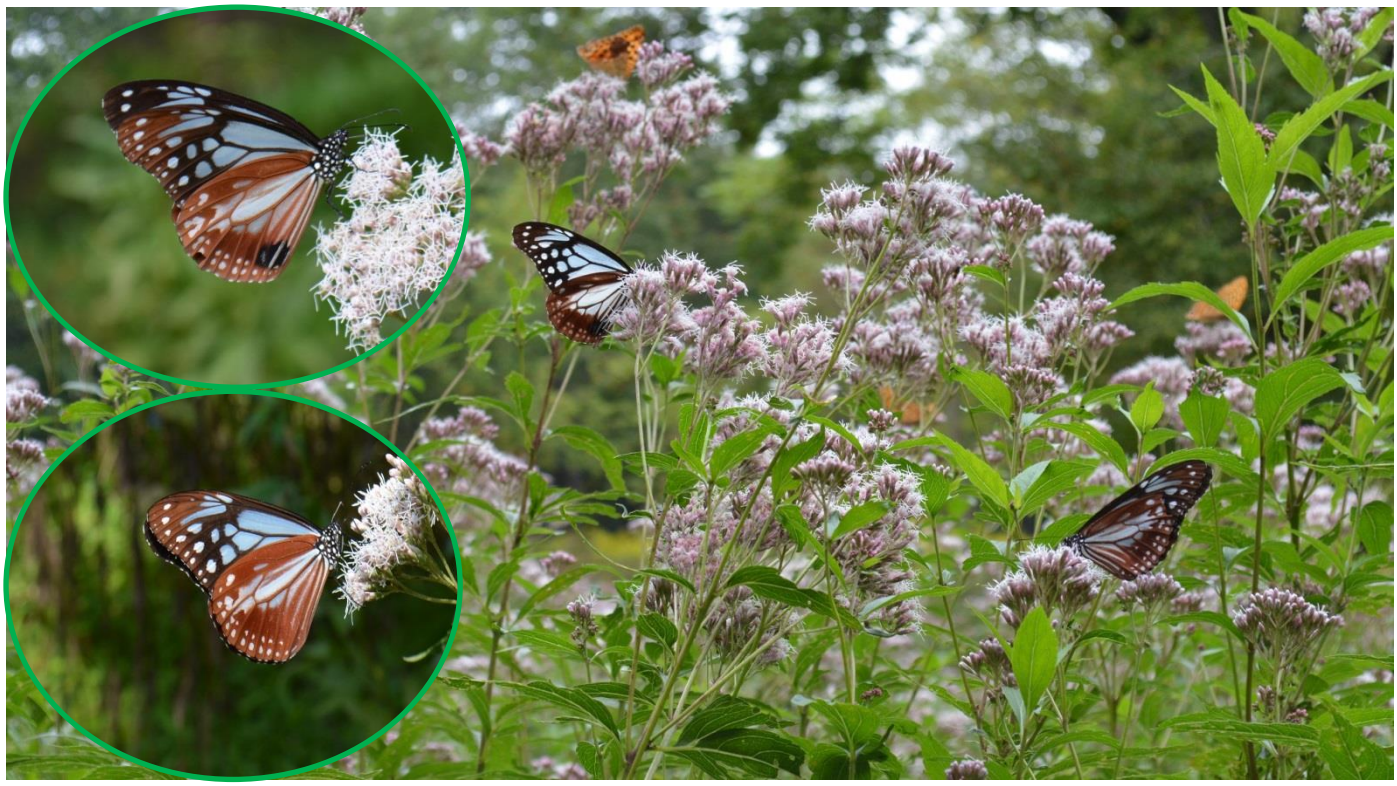
平成２９年９月１５日

各　位

山形市野草園　：　山形市大字神尾 832-3
電話　023-634-4120

# 山形市野草園からのお知らせ



フジバカマの花に止まり吸蜜する渡り蝶のアサギマダラの雄（写真上）と雌（写真下）

９月になるとアサギマダラが野草園のフジバカマの花にやってきます。蔵王の山々で生まれ育ったアサギマダラが南の方に移動するとき、その一部が野草園を通過していきます。アサギマダラの雄は成熟するためにフジバカマの蜜を吸う必要があります。雌を惹き付けるフェロモンを作るために必要な物質が、その蜜の中に含まれているからです。雄と雌の区別は後ろ羽の外側で出来ます。羽の茶色の模様の下の所に黒い斑点があるのが雄です。雌にはありません。ここで十分蜜を吸ったアサギマダラは、また次の蜜を求めて南への旅に出発します。

野草園の「七草の庭」ではオミナエシやフジバカマ等の秋の七草の花が咲き誇り、渡り蝶のアサギマダラの写真を撮るカメラマンの姿が見られます。アサギマダラは美しいばかりでなく、近づいても人を恐れないので逃げず写真を撮り易いです。また林の中ではブラシのような形の白いサラシナショウマの花が咲き誇っています。そして、クリやコナラ、ナナカマドなどの樹木には、たくさんの果実が実って一層秋を感じさせます。９月の連休には「秋の野草園祭り」で、楽しいイベントを企画しています。子供達にはミニ新幹線や小馬に乗ってもらい、大人には焼き栗や餅の振る舞いなどで秋の味覚を楽しんでもらいます。

## ９月中旬から１０月上旬の予定

◆「野草園第２４回写真コンテスト作品募集」　　9/1（金）～9/24（日）

◆【東北南３県ボタニカルアート作品展】

〇日　時　　９／３（日）～９／２４（日）　９：００～１６：３０　　※９／１７展示入替えあり、最終日

9／24 は 15:00 まで
〇場　所　　自然学習センター内　展示室
〇内　容　　山形県、宮城県、福島県のボタニカルアート教室に通うボタニカルアート愛好者の作品を展示し、来園者に鑑賞して頂く。

## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆『秋の野草園祭り』9／16(土)～18(月)祝日 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

**期間中のイベントの参加費はすべて無料です。（入園料別）**

**◆【水風船プレゼント】**
〇日　時　　期間中毎日、10:00～12:00、13:00～14:00　なくなり次第終了
〇場　所　　自然学習センター　ピロテイ

**◆【餅振舞い】**
〇日　時　　９／１６（土）　　11:00～　なくなり次第終了、なお当日整理券を配布します。
〇場　所　　自然学習センター前　中央広場
〇内　容　　大曽根餅つき保存会による実演と体験餅つきの後、振る舞います。

**◆【木の実のオブジェ作り講座】**
〇日　時　　９／１６（土）　13:00～15:00
〇場　所　　自然学習センター　ピロティ
〇内　容　　野草園内の木の実を観察し、その後、木の実を使ったオブジェを作成します。

**◆【焼き栗振舞い】**
〇日　時　　９／１７(日)　　10:00～12:00、13:00～15:00　　なくなり次第終了
〇場　所　　自然学習センター前　中央広場
〇内　容　　焼き立ての栗を振る舞います。

**◆【ミニ新幹線運行】**
〇日　時　　９／１７(日)、１８(月)　　11:00～12:00、13:00～15:00
〇場　所　　自然学習センター前　中央広場
〇内　容　　東北ライブスチームクラブ須貝健二氏により連続運行。＊雨天中止

**◆【山形まるごと市】**
〇日　時　　９／１７(日)、１８(月)　　10:30～15:00
〇場　所　　料金所の隣
〇内　容　　西蔵王の特産物を販売します。

**◆【乗馬体験】**
〇日　時　　９／１８(月)　　10:00～12:00、13:00～15:00
〇場　所　　自然学習センター前　中央広場
〇内　容　　子供はポニー、大人はサラブレッドに乗って広場のコーナーを一回りします。毎回大人気です。それぞれ先着１００名（当日整理券配布）　　＊雨天中止
協力：山形馬事センター　関 智哉　氏

**◆【65歳以上　無料入園日】…9／18（月）**　敬老の日の趣旨から、ご家族との来園を応援します。
＊尚、**ガイドウォーキングと山野草販売、たべもの屋台は3日間とも**行います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

**◆【プリザーブドフラワー教室】**
〇日　時　　９／３０(土)　１０：００～１２：００

〇場　所　　自然学習センター　ピロティ
〇講　師　　フラワースクールピュア　多田葉津恵　氏
〇内　容　　長期間保存できるように加工した花などを使ってのアレンジ作品制作。
〇募集人員　一般先着２０名。　　費用は２４００円。（入園料別）
〇申込み　　電話で野草園まで　ＴＥＬ０２３－６３４－４１２０

◆【ガイドウォーキング 】

〇日　時　　９／１６（土）、１７（日）、１８（月）、２３（土）、２４（日）、３０（土）、
　　１０／１（日）、８（日）、９（月）
　　１回目 10:00～11:00、２回目 11:00～12:00、３回目 13:00～14:00、４回目 14:00～15:00
〇内　容　　ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見頃の花の場所に案内してもらい、その花の説明もしてもらえます。

## ◆◆◆野草園の９月後半に見られる主な花たち◆◆◆

**オミナエシ（オミナエシ科）**

日当たりのよい山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭くまた尖ります。茎は上部で枝分かれし、黄色の小さい花を多数つけます。果実は長楕円形でまわりは翼状にはなっていません。秋の七草として有名な植物です。花が満開になるとその独特なにおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。

**フジバカマ（キク科）**

本州の関東地方以西、四国、九州の土手などに野生する多年草です。奈良時代に中国から渡来したものと考えられているそうです。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があります。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっているそうです。

**ウゼントリカブト（キンポウゲ科）**

東北～関東の奥羽山脈等の山地帯の林内、林縁や草原に生える多年草。茎は林内や林縁に生える時は斜上して、草原に生えるときには直立するそうです。花時には根生葉と下部の茎葉はなくなるようです。名は花の形が舞楽の楽人の冠に似て、蔵王山の山形県（羽前国）側で採集されたためです。全草に毒を持っています。

**シュウメイギク**（キンポウゲ科）

庭に植えたり、人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品で中国では秋牡丹といわれているそうです。名は、秋に菊によく似た花をつけることによります。しかし、本種は菊でも牡丹でもなく、英名の〝ジャパニーズアネモネ〟が示すとおり、秋咲きのアネモネそのものです。

**タイワンホトトギス**（ユリ科）

沖縄県西表島、台湾などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さ 30～50 ㎝になります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種はタイワンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。

**オケラ**（キク科）

日当たりのよい乾いた草地に生える多年草です。花を囲む苞葉が魚の骨を並べたような形をしています。葉はかたく、縁にこまかな刺状の鋸歯があるのも特徴です。若芽のうちは綿毛をかぶっていてやわらかく食用にされます。根は胃の薬として使われるそうです。名は、古名のウケラの訛といわれいます。

**サラシナショウマ**（キンポウゲ科）

落葉樹林内や草原などに生える多年草。茎の先に総状花序をだし、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名は晒菜升麻で、若葉をゆでて水でさらして食べることによります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻で解毒・解熱剤などにするそうです。

**ワレモコウ**（バラ科）

山野に普通に生える多年草で、葉は互生し長柄があり、奇数羽状複葉です。小葉は５～１３枚で長楕円形です。花は楕円形で、上から下へと開花します。花は花弁がなく４枚の萼片が花弁のように見えます。萼片は暗紫色で雄しべは４個で葯は黒く萼片より短いようです。名は紋所のモコウからきたものといわれています。

**コスモス（キク科）**

メキシコの原産で、観賞用として花壇などに植えられる１年草です。茎はまばらで直立し、葉は対生し２回羽状に分裂します。茎の上部に白色、淡紅色、深紅色などの花を開きます。頭花は周辺に８枚の舌状花がならび、これが花色を表します。中心には黄色の筒状花が多数集まり結実します。コスモスは学名の属名そのままです。

**キバナコスモス（キク科）**

メキシコ原産の1年草。コスモスの1種ですが花色は橙色や黄色などです。草丈は低め、花もコスモスより早い時期から咲き始めます。黄色の花を咲かせるコスモスの仲間なので、キバナコスモス（黄花コスモス）です。大正時代に渡来し、性質は丈夫で、真夏の炎天下でもめげることなく元気に育ち花を咲かせてくれます。

**アケボノソウ（リンドウ科）**

山野の湿り気のあるところに生える２年草で、茎は直立して枝分かれします。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く５裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の蜜腺溝が２個と黒紫色の斑点が多数あります。「曙草」の名は、花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立てつけられたようです。

**ウメバチソウ（ニシキギ科）**

山野の日当たりの良い湿地に生える多年草で、10～40cmの細い花茎を直立し、白色の5弁花を1個付けます。雄しべが5個、花粉を出さない仮雄しべ5個あり先が糸状に12～22裂しています。花茎に付く葉は柄がなく心形で花茎を抱いています。名の由来は、花の形が梅鉢の紋に似ているからのようです。

**センニチコウ（ヒユ科）**

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、庭園に植えられていますが、熱帯地方原産の１年生草本です。茎の先に長い花茎をだし、その先に１個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色、まれに淡紅色、または白があります。名は花が長持ちするからです。

**ゴマナ（キク科）**

山野の日当たりの良い所に生える多年草です。草丈が１～１．５ｍで茎や葉に細毛があり、触るとざらつきます。茎の上部で散房状に枝を分け、白い小菊のような花を多数付けます。白い花弁は舌状花で中心の黄色いところは筒状花です。名前は葉が“胡麻”の葉に似ているところからきているようです。

**タムラソウ（キク科）**

山地の草原などに多い多年草で、葉は互生して羽状に深裂します。枝先にアザミに似た花をたくさんつけます。葉もアザミに似ていますが、刺はなく質もやわらかいようです。頭花は紅紫色で上向きにつき、総苞は鐘形で、花柱の先がふたつに割れて反り返る特徴があります。

**ヒメヒゴタイ（キク科）**

日当たりのよい山地草原に生える越年草です。葉は広披針形、下葉は羽状に深裂します。茎は上部でよく枝分かれし、細毛があります。頭花は紅紫色で多数咲きます。総苞は鐘形、総苞片は6～7列に並び、膜質の付属体があります。名はヒゴタイに比べて小形であるからです。

**ヒガンバナ（ヒガンバナ科）**

人里に近いところに群生する多年草です。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒いそうです。秋の葉がない時に鱗茎から茎を１本出し、その先に有柄の花を輪状につけます。花被は６片で細長く外側に反り、へりは縮れています。雄しべ６本と雌しべが長く出て花被と同色です。名は秋の彼岸頃に花が咲くからです。

**リンドウ（リンドウ科）**

秋の山を代表する多年草で、根茎は細く葉は緑色で、縁は細突起があってややざらつきます。茎の頂きまたは上部の葉のわきに青紫色の花を開きます。花は鐘状で5裂し、裂片の間にはさらに副裂片があります。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。根茎と根を乾燥したものが漢方の竜胆で、煎じて健胃剤とします。名は竜胆に由来するそうです。